

私の思う開発工学

7月10日「工学と国際開発」研究部会
学生によるディスカッション
国際開発工学科2年 黒部笙太

私が抱いていた
開発工学のイメージ



ものづくり

生産性・効率
の改善

現地の人
のニーズに
応える

教育・医学
とは違う
アプローチ

適正技術



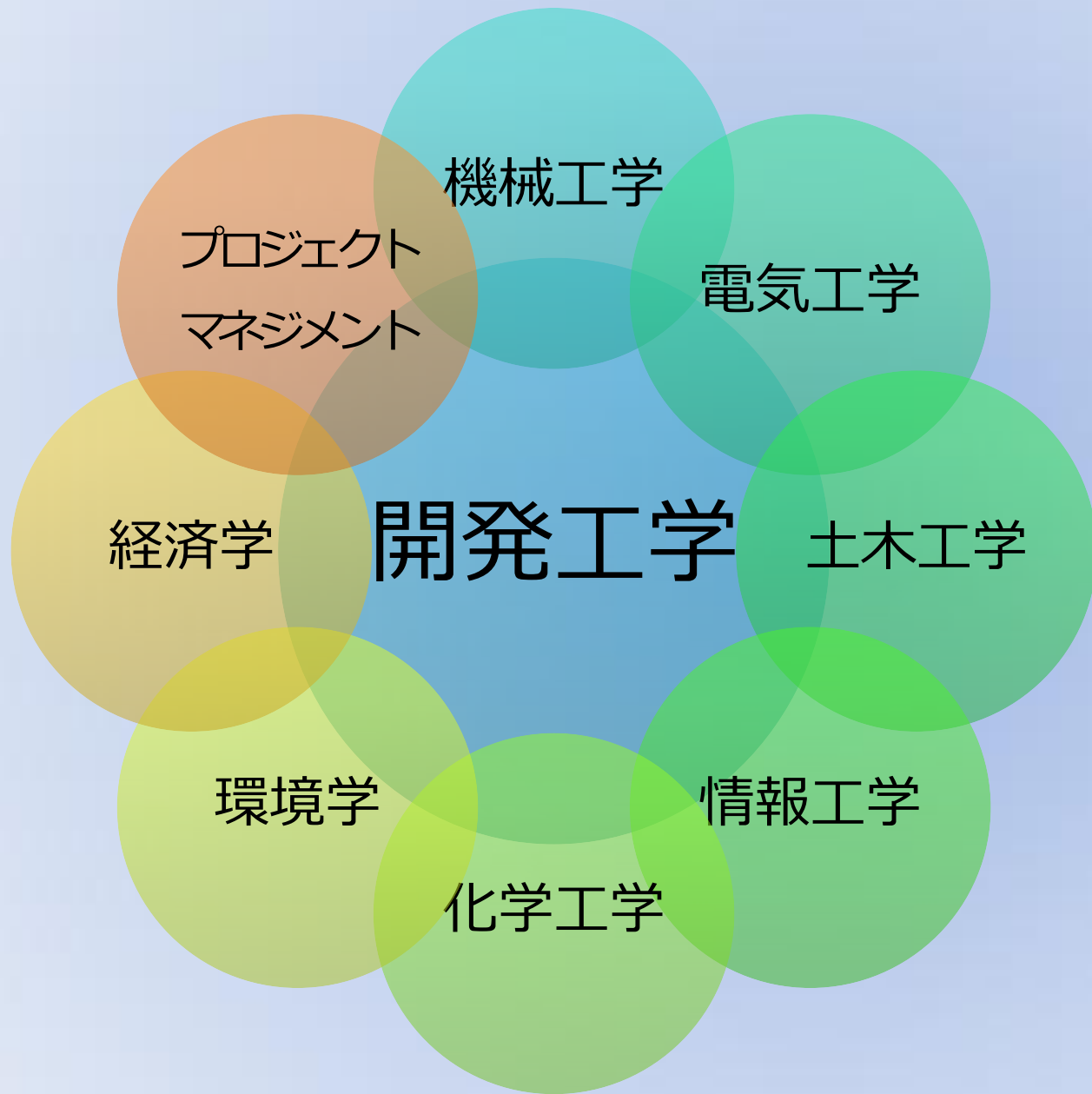
適正技術(Appropriate Technology)

- コミュニティーの多くの人が必要としている
- 持続可能性を考慮した原材料・資本・労働力
- コミュニティー内で所有・制御・稼働・持続が可能である
- 人々のスキルや威厳を向上させることができる
- 人々と環境に非暴力的である
- 社会的・経済的・環境的に持続可能である
という条件をすべて満たす技術のこと(遠藤)

以前の開発工学のイメージ

- 教育の改善や外交政策のといった結果が不可視的なアプローチではなく可視的なアプローチを図るもの
- 工学的技術を用いるもの
- 貧困問題の解決方法を工学の視点から考案しているもの
- 適正技術

現在抱いている
開発工学のイメージ



現在の開発工学のイメージ

- 様々な学問の共通項を探る学問
- ミクロな視点からマクロに考える学問
- 現在から未来を見つめる学問
- 途上国問題の解決に重きを置いている学問
- 様々な方法でアウトプットされる学問